



# どうにかする力

泗水小学校だより  
R5. 1. 17(火)  
No. 40  
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに  
【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～



※左のQRコードを読み取ると泗水小HPに移動します。随時更新中です。

## 熊本地震被災文化財復旧情報発信出前授業～5年生～

1月13日(金)に、熊本県教育庁文化課から文化財保護主事や学芸員の先生方3名に来校いただき、5年生3クラスで出前授業を実施していただきました。

授業では、文化財とは何か、どんなものがあるのか、熊本地震の被災状況や現在の復旧の様子、保護する意義などを説明していただきました。菊池市内にある鞠智城や菊池神社、本校区内にあり5年生もよく知っている安国寺なども取り上げていただき、身近な文化財を守っていくことの大切さなどを考えることができました。



## 4年生が「小倉百人一首」競技かるたに挑戦しました！

1月12日(木)に、熊本かるた協会会長の高橋章夫先生、泗水かるた会から岩崎美保様、岩崎美乃里様に来校していただき、4年生が国語科で学習する「小倉百人一首」についての講話と実践の指導をしていただきました。

まず、高橋章夫先生から、「小倉百人一首」が成立した歴史や競技かるたの方法について詳しく説明していただきました。その後、16枚の札を使って実際に「競技かるた」に挑戦しました。成立して800年ほどが経過している百人一首が、こうして現代においても競技かるたとして愛好されているのはすごいことだなあと改めて思いました。

来校して下さった岩崎美乃里さんは、10年前の泗水小の卒業生です。岩崎さんが在籍していた頃の泗水小は、かるたがとても盛んで、休み時間ごとになかまが集まってかるたを楽しんでいたそうです。泗水小の卒業生の中には、高校・大学でも競技かるたで活躍した人もいるということでした。

なお、泗水かるた会は、竹の下公民館で土曜日の午後2時～5時まで行われています。興味がある方は、参加されてみてはいかがでしょうか。



## ☆校長室から独り言37☆

### 子どもの体力が危ない！～全国体力テストの結果が過去最低に～②

前号の続きを書きます。公益財団法人長寿科学振興財団のホームページによると、体力とは、「ストレスに耐えて、生を維持していくからだの防衛能力と、積極的に仕事をしていくからだの行動力をいう」と定義されていました。体力は、「運動をするための体力(行動体力)」と「健康に生活するための体力(防衛体力)」とに分けることができます。「運動をするための体力(行動体力)」とは、身体を動かすために必要な基本的な身体的能力を指します。筋力、運動に合わせて身体の動きを調整するための調整力、行動を起こすための瞬発力、行動を持続するための持久力があります。体力テストで測ることができる体力です。一方で、「健康に生活するための体力(防衛体力)」とは、感染症などの病気に対する抵抗力のことを指します。生活習慣病に関わる血圧、総コレステロール値、肥満傾向などの値で表すことができる体力です。

体力は、人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」の重要な要素となるものです。したがって、運動不足や不適切な生活習慣は、単に運動面にとどまらず、肥満や生活習慣病などの健康面、意欲や気力の低下といった精神面など、子どもが「生きる力」を身に付ける上で悪影響を及ぼします。また、体力の低下により、ますます体を動かさなくなり、一層の体力低下を招くといった悪循環にも陥る可能性があります。

文部科学省のデータによると、体力テストの結果は、男女ともに6歳から加齢とともに上昇し、男子が17歳頃、女子が14歳頃にピークに達した後、20歳以降では加齢とともに緩やかに低下する傾向があるとされています。将来、体力が低下していくとすれば、小学生の今こそ、体力を向上させる重要な時期です。学校では、子どもたちに体を動かしたいという意欲を高めて、体を動かす機会を増やしていきたいと思えます。ご家庭でも、休日などを利用して、親子で外に出て一緒に遊ぶなど、体を動かす習慣をつけていただけたらと思います。